

7/26 朝日

デモの声 首相は受け止めよ

僧職

(広島県 85)

86歳の方の「学生デモ 特攻の無念重

ね涙」(18日)に共感し、過去を思い起

こした。私も元予科練(海軍飛行予科練

習生)で、投稿者と同じ山口県・防府の

通信学校にいた。後輩に当たる私は入隊

が敗戦間際で、訓練より空襲から逃げる

時間が多かった。それでも戦争や軍隊の

不条理に夜な夜な涙した。戦争への道筋

きつめる安全保障関連法案を憎む。法案

反対のデモが若い世代に広がりつつある

ことに身が震えるような感激を覚える。

同じ日の声欄、19歳の方の「安保法案

阻止 私の民主主義」からも新たな勇氣

を頂いた。戦争を知らず自ら戦場に立つ

こともない安倍晋三首相はじめ法案成立

に狂奔する政治家たちは、戦争体験者や

戦場に駆り出されるかもしれない若者た

ちの声を真摯に受け止めたらどうか。

平和のため 今が踏ん張り時

専門学校生

(愛知県 32)

日本は世界で唯一、戦争で

原爆を落とされた国だ。私た

ちには、果たすべき役割があ

るのではないか。

大学時代、インド南部のケ

ララ州に研修に行った。小学

校を訪れると、校庭いっぱい

に子どもたちが出てきて、日

本から来たと言っていると口々に

言った。「ヒロシマ」「ナガ

サキ」と。被爆体験はこの地

でも心に刻まれていた。被爆

の重みを改めて思い知った。

そして平和の大切さを次代に

伝え、戦争放棄をしたった憲

法の条を守ってほしいと

思った。その思いは2児の母

となり、看護学生として助産

師を目指す今も揺るがない。

健やかに大きなあれと願

いながら子育てを楽しめるの

も、自分の夢に向かい勉強に

励めるのも、平和で自由な社

会に生きていけるからだと願

う。戦争は愛も夢も自由もす

べて奪い去ってしまう。

安全保障関連法案に反発が

強まっている。当たり前と思

っていた平和に危機が訪れて

いると、多くの人が感じてい

るからだろう。私たち大人が

今、踏ん張らなくては。平和

の中で、子どもたちが夢に向

かって生きていけるように。